

優良案件例

ガーナ「ラボネ高校野球・ソフトボールグラウンド整備計画」 (草の根文化無償資金協力(0.09億円) 2013年2月1日～2014年3月31日)

2014年3月、日本の支援によってガーナ初の本格的な野球場が完成しました。その名も「KOSHIEN(甲子園) GHANA」。ガーナでスポーツといえばサッカーの人气が圧倒的ですが、長年にわたる在留邦人の支援などのかいもあって、野球やソフトボールもしっかりと根付き始めています。白球を投げる、打つ、追う、という野球やソフトボールの楽しみが、アフリカの地でも広がりを見せているのです。「ガーナ野球・ソフトボール協会」、ガーナの日系 NGO「おはようガーナ基金」、ガーナにおける野球振興を長年支援している日本の NGO「アフリカ野球友の会」などの活動を通して、ガーナの野球人口は年々増加しています。

とはいっても、これまで野球の練習や試合は、整備されていない空き地や学校のグラウンドで行われていました。そこで、今回、「草の根文化無償資金協力」によって、バックネットや土の入れ替えなどにより、野球・ソフトボールのためのグラウンドが整備されました。このグラウンドは、野球を愛する人たちの手作業で整えられていきました。整備の最終段階には、ガーナ野球・ソフトボール協会メンバー、ガーナのベテラン、若手の野球選手や野球少年たちがグラウンドに集まり、日本の大使館有志と共にベースを設置したり、小石を取り除いたり、ローラーをかけたりしました。

現地の人々と共に力を合わせて作り上げられた「KOSHIEN」では、今後、ガーナの少年たちが野球・ソフトボールというスポーツを通じて健全な心身を育んでいくことが期待されています。ガーナの「KOSHIEN」では、今日もガーナの球児が仲間と一緒に白球を追いかけています。



ラボネ高校野球・ソフトボール完成披露式・開幕試合における記念写真
(写真提供：在ガーナ日本大使館)

コロンビア「カジェタノ・カニサレス体操体育館器材整備計画」
(草の根文化無償資金協力 (0.06 億円) 2015 年 2 月～2015 年 7 月)

コロンビアといえばサッカーの強豪国として知られており、コロンビア代表は 2014 年ブラジルW杯に出場し、日本代表とも対戦しました。コロンビアでは国民の生活の質を向上させるため、スポーツ全般の強化に取り組んでいます。体操競技についても各地にある体操連盟を中心に普及活動やレベル向上に向けた取組が行われています。日本の体操競技のレベルが高いこともあり、日本人 3 名の体操コーチが現地で活躍しています。

しかし、コロンビアではスポーツ予算が限られているため、スポーツ活動の場所が十分に整備されていませんでした。たとえば、首都ボゴタ市内のカジェタノ・カニサレス体操体育館では、古いスプリング式床の交換ができなかったため、体操の練習を行う際、身体にかかる衝撃を十分に吸収できず、練習中に捻挫や骨折をおこしてしまう選手も少なくありませんでした。そこで、日本政府は「草の根文化無償資金協力」の実施によって、この体育館のスプリング式床を新調しました。

その結果、この体育館で練習する約 500 名の選手や体操教室の参加者が、腰にかかる負担が少なく、安全な環境で安心して体操競技の練習を行うことができるようになりました。現在、この体育館で日夜練習に励んでいる若い選手の中から、2020 年の東京オリンピック開催時にコロンビア代表となる選手がはばたくことが期待されます。



器材引き渡し式で披露された体操クラブメンバーの演技
(写真提供：在コロンビア日本大使館)